



## 歯科治療に伴う全身への影響 ～歯性病巣感染～

### 病巣感染とは

身体の一部に慢性の感染巣があり、それ自体の症状は軽いですが、これが原因となって他の臓器に反応性の病変をつくることをいう。

歯周病やう蝕は口腔内常在菌を原因とする慢性感染症であり、歯性病巣感染は、このような歯の感染症が原因となる遠隔臓器の障害である。すなわち、歯肉や根尖部の病巣から、細菌や細菌毒素、炎症を起こすサイトカインなどが血液を介して全身に運ばれ(菌血症)、遠隔臓器に炎症や、感染症をもたらす。

### 歯科治療において、歯性病巣感染を注意しなければならない疾患

心疾患…先天性心疾患、弁膜症、冠動脈疾患、大動脈疾患

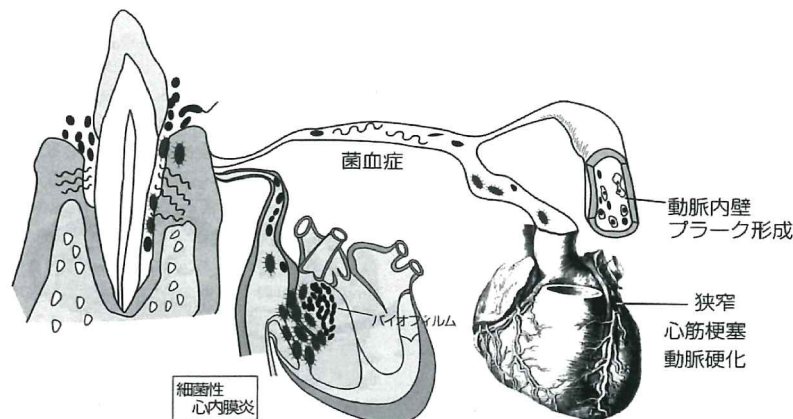
特に弁置換術、冠動脈バイパス術、人工血管置換術を受けている場合。

糖尿病…歯周病などの慢性感染病巣の影響で血液中のTNF- $\alpha$ が増加し、インスリンの働きを妨げる。

その他…動脈硬化、掌蹠膿疱症、IgA腎症、早産や低出生体重児の危険性が高まるなど。

### 歯科治療時の注意事項

- 抜歯など出血を伴うあるいは根尖を超える侵襲を伴う処置に注意が必要。
- 問診による患者様の既往の把握と医科担当医との連携。
- 術前後の口腔ケア、術前抗菌薬投与などの必要性の検討。
- 病院歯科、口腔外科との連携。



監修 歯科口腔外科  
旭川医科大学名誉教授  
松田光悦